

機器・機材会社に聞く我が社の取り組み

海外展開とAI化の2本柱で

マークテック常務執行役員 市川大介氏



2つを軸に進化させていく。

まず、海外展開について。当社は現在、中国・韓国・タイ・インドネシアに進出している。中国・韓国・タイは現地の子会社を設立し、製造も現地で行っている。また、インドネシアは現地ローカルパートナーと共に、溶接への需要の高まりに検査技能者の人数が追いついていないという、業界としての課題を抱えている。

日本の構造物の多くは高度経済成長時期に建設されており、老朽化の面からも、今後の検査への期待は高まっている。また、インドネシアは現地ローカルパートナーと共に、溶接への需要の高まりに検査技能者の人数が追いついていないという、業界としての課題を抱えている。

非破壊検査や印字・マーキングなど品質保証に関わる総合メカであり、染色浸透探傷剤の分野では国内トップクラスのシェアを維持してきた当社は、今後、国内市場で積み上げたノウハウを「海外展開」「AI化」の

検査している。より検査精度を向上するため、技術開発を今後も進めていく。

当社では2018年に「技術承継事業」を立ち上げた、既に3案件を実施済みである。今後もM&A（合併・

マークテックII付加価値探傷液

環境考慮型探傷剤に注目

1955年に探傷剤の化成剤メーカーとして創業したマークテック（東京・大田区、西本圭吾社長）は、非破壊検査およびマークテックの総合メーカーとして、特に染色浸透探傷剤の分野では国内トップクラスのシェアを握っている。また、同社で発売以来、注文が絶えない「スーパージェットII」写真IIは、多くの溶接事業者に愛用されている。

同製品の魅力は溶接部分など金属を対象としているだけでなく、プラスチック、陶磁器、セラミックス、ガラスなどの表面にみられる欠陥にも対応。JISに適合しているのはもちろんASMEに準拠している。有機溶剤中毒予防規則（有機則）に該当しないため、労働安全衛生面の向上、作業環境の改善にも有効だ。



同製品は基礎的な性能に加えて、消防法に該当しない不燃性シリーズ「エコチェック」という環境を考慮したシリーズなど、高付加価値を与えたラインアップを展開している。特にエコチェックのシリーズは2001年に開発してから20年で世界的なSDGsへの取り組みなどが背中を押す形で注目度が格段に向上している。

止に重要な役割を果たし、様々な部品や製品を壊さないで、微細な欠陥を見つけ出し、破

産報出版株式会社発行

溶接ニュース 第3379号 (2021年3月23日)